

令和 3 年第 2 回定例会

大野誠一郎による質疑応答全文（2021 年 6 月 18 日）

【注意事項】

ここに記載した龍ヶ崎市議会定例会における答弁内容は当ホームページ掲載に向けて一部体裁等を調整しておりますが、答弁内容については公式に発表された議事録と照合した上で、忠実に再現しております。

大野誠一郎

通告に従いまして、一般質問を行います。

一つ、官製談合事件について、二つ、市長交際費について、三つ、水質浄化についてお尋ねいたします。

官製談合事件について、1 番目の官製談合事件の経緯と概要については割愛させていただきます。割愛する理由は、総務部長から判決前のこういった経緯、概要についても差し控えたい、あるいは捜査の継続中であるというようなこともお聞きしましたので割愛させていただきます。

昨日、後藤議員の質問で、あるいはまた本日の後藤敦志議員の問いで、しがらみを断ち切るという内容がありました。市長にお尋ねいたします。しがらみとはどういうものであるか、そしてまたどのような形で断ち切ることができるのだろうか、それをお伺いしたいと思います。

中山一生市長

しがらみとは、しがらみの定義についての突然のご質問ですので、辞書などで調べてきておりませんでした。しがらみというのはこの市役所においては全体の奉仕者である公務員の仕事を阻害するような外部からの圧力というふうに言えるのではないかなと思います。

大野誠一郎

市長、辞書を調べるまでもなく市長自らが発言したわけなんです。ですので、どういうしがらみがあって、どのように断ち切るんですかということを聞いています。そういった具体的なことをお伺いしたいと思います。

中山一生市長

繰り返しになりますけれども、全体の奉仕者である市役所の職員、公務員を公務の中でそれを阻害するような外部からの圧力などがしがらみに当たるというふうに、今ご質問をいただいて、今この演壇に立たせていただいている間に頭の中で考えた内容でございます。

これについては、やはり今回官製談合防止法違反という事件の内容でもございますので、例えば官製談合防止法の中であれば当然その談合しようとする事業者と、全体の奉仕者である公務員が官製談合などを行わないための、そのような官製談合を促すような全体の奉仕者としての公務を阻害するような、そのような外部からの圧力が私の言うしがらみというふうな形になると考えます。

大野誠一郎

今こうお尋ねしますのは、市長が要するに後藤光秀議員の質問で答えたわけですから、しがらみを断ち切るということで答えたわけですから、そしてまた終わってからの全協の中でも、またしがらみを断ち切るというような二度繰り返しているわけですから、当然明確に内容がはっきりしているものと思われたわけでございます。

ほかの議員に聞きましても、しがらみを断つと言っていたと、でもしがらみとは何だろうか、皆さん分からないんです。あるいは銘々それなりに考えているかもしれませんが、やはりその発言のそのものについてはやはり責任を持ってほしい。今考えて外部の圧力からだなんて話は、私はないかと思います。昨日既に答えたわけでございますし、全協の中でももう一回しがらみを断ちたいということを言っているわけですから、当然ははっきりしているものと思われるわけです。

そのしがらみについては、社協副会長のしがらみはしがらみでないんですか。あるいはその中には入っていないんですか。今答えていただきました建設業だけが外部の圧力なんですか。お答えいただきたいと思います。

中山一生市長

しがらみを断ち切るという言葉でございますけれども、これは先ほど申し上げましたが、これはもちろん例示として建設業者、事業者の例を挙げさせていただきましたが、市政全般において様々な市役所外からの声等が日頃からたくさんあるわけでございます。これは全体の奉仕者として一部の方側に偏るようなことがあってはならないわけでもございますので、そのようなものも含めて市役所、地方自治体でもございます。私も含めてですが、政治サイドにいる議員さんにおかれてもいろいろな知り合い、親戚等々、友達等々いらっしゃるかと思います。そういうものにとらわれるのではなく、やはり公平公正で適正な事務執行を行っていくための、そのようなしがらみを事務を行う上では断ち切っていかなければならないという意味で申し上げたところでもございます。

大野誠一郎

後藤光秀議員の官製談合事件のことで絞って真摯な質問をして、当然中山市長も真摯な答弁をなさっていると誰も思うわけですよ。適正な事務執行をどうのこうのじゃないですよ。そういう全般なことで答えましたという話には私はならないと思います。

私の質問にイエスかノーでも結構なんです。簡単でいいです。社協副会長は入っていないんですか。入っているんですか。

中山一生市長

社会福祉協議会の副会長のお話が出ましたが、個別具体的なお話については、今後判決も控えていることでありますので、この場でのお答えを差し控えさせていただきたいと思います。

大野誠一郎

一応これは保留します。

年に10件、10年間にわたり談合が恒常的に行われたことについて。そういった報道がありました。その

報道につきましても被告人質問で社協副会長が答えたものです。その件についての市長の認識、お考えをお尋ねいたします。

中山一生市長

公判の中で、今、大野議員が指摘をしていただいたような被告からのそのような発言があったことについては驚きを禁じ得ないところでもございますが、そうした事実の有無についても現時点では分かりかねるところでもあり、引き続き公判の推移を注視し、事実確認に努めるほか、談合についての対応指針などもありますことから適切に対応してまいりたいと考えております。

大野誠一郎

被告人質問で川北被告は動機について、2011年頃、つまり10年前から、私を含む市長派と建設業界が対立していた。支援の代わりに入札の参加業者を教えてほしいと頼まれた。支援の代わり、市長の支援の代わりです。市長のために十数年前から行われていたわけです。それを公判だからという形で答弁を避けるのは私は納得いかないんです。市長のためなんです。そしてまた市長就任以来ずっと行われていたということです。それも官製談合で。

部長名、人事課長名、それから契約検査の課長、歴代にわたると中山市長が市長になって以来、総務部長が7人、それから人事課長が7人です。契約検査課長は3人です。その十数年行われてきた官製談合、どのように考えるのかとお尋ねしたいと思います。

中山一生市長

公判の中での被告からの発言についてのご質問かと思いますが、引き続き公判の推移を注視し、事実確認に努めるほか、談合についての対応指針などもありますことから、適切に対応してまいりたいと考えております。

大野誠一郎

中山市長、市民の多くは3月3日逮捕された日からこれまで3か月、議会は何をしているのか、市長は何をしているのかと、そういう怒りの声が届いているんです。市長には届いていないんですか。

これまでの後藤敦志議員の副市長が誕生する件に当たりましての質問があって、中山市長が決めた、自分で決定したということですが、実際は決裁をただけだろうと私は思います。あるいは、協議をして決めたかも分かりません。

次に移ります。社協元副会長が人事や市政に影響力があつたことについて。やはりこれも市長が訂正をした内容でございます。関係したときには分からなかったと。じゃ、その後に聞いたということでもありますけれども、人事あるいは市政に影響力があつたことについて、再度お伺いいたします。

中山一生市長

これまでもこの一般質問の中でも答弁をさせていただきました。繰り返しの部分があることをお許しをいただければと思います。

私は川北元龍ヶ崎市社会福祉協議会理事の持つ人事、そして市政への影響力は大きくなかったと

考えているところは変わりません。ただ事件の発覚後、職員への聞き取りや当事件の公判に関する新聞報道など私の知り得た情報の中で、職員などに対して人事介入と受け取られかねない事案があったことや、市政への影響力を持っているような振る舞いなどがあったことについて認識したという経緯でございます。

しかしながら、先ほどの質問にもございましたが、人事についてはこれも繰り返しの答弁になりますが、担当による幾度もの協議、調整後、職員のキャリアや成果を反映させ、最後に私が決定をしておりますし、市政についてもまた然りであります。人事の決裁をしているだけではないかというお話がございましたが、担当者と本当に何度も何度も協議を繰り返しながら、人事については最後に決定をしているところでもございます。

一方で、公判に関する新聞報道等もございましたとおり、川村元副市長への働きかけがあったとされる状況等を含め今回の事件の背景として、市の人事がゆがめられていたと言及されておりますことから、今後予定される川村元副市長の公判につきましてもしっかり注視をしてみたいと考えております。

大野誠一郎

知らないのは中山市長だけだろうと思います。人事の介入、市政についての影響力、皆さんは知っているだろうと思います。

去年の12月に6件の官製談合があったということが報じられておりますけれども、そしてまた先ほどの年に10回、10年にわたり、そんなわけないと思います。なぜなら12月の一月に6件があったわけです。むしろ度々やっていて、市長が知らないだけだろうと思います。なぜこのような事件が起きたのか、市長は考えていないんですか、尋ねたいと思います。

中山一生市長

今ご質問にありました6件について、本市が発注した工事の官製談合防止法違反の罪に問われているという状況でございます。これはやはり全体の奉仕者として、先ほども申し上げましたが、法を守っていくことはもちろん、公共の福祉の増進のために全力を挙げて職務に専念をしなければならない、公務員としてやはりあってはならない、自覚を著しく欠く行為であったというふうに認識をしているところでもございます。

私としては、やはりこれを防ぐべき市長として防ぐことができなかったことについては強く責任を感じているということは、何度も申し上げさせていただいているところでもございます。

大野誠一郎

私はなぜこのような事件が起きたのかを考えなかったんですかと。考えていないんですかと、そういう内容です。10年にわたり、言い換えれば中山市政就任以来、人事の介入あるいは市政の影響力を社協元副会長がなぜ行使されていたのか。緊急質問の私の質問に市長は、後援会の一人、支持者の一人であったと。それから社協副会長であったと。そういうことの内容でこういう10年間にわたりなぜできたのか。あとは知らないということで済むわけにいかないんですよ。

ましてや自殺者が3人出る。これは中山市長の12年間のたまりにたまったものですよ。だから、なぜ起きたんですかということを聞いているんです。こういうことが分からないようでは3人の自殺者の気持ちが私は済まないと思います。

中山一生市長

今回の事件に関しましては、これから判決または公判の中身などで明らかになる事実が、これからまだまだ続々と出てくるものと考えております。

今質問にありましたことも含めて、もう二度とこのようなことが起こらないように第三者委員会での原因究明、そして再発防止策を徹底していくことが、私がこの事件を防ぐことができなかったことに対する責任の果たし方であると思いますし、これを徹底していくことが今後の市民からの信頼回復にもつながるという思いで、強い気持ちで議員の皆様と力を合わせていかなければならないことだと考えているところです。

大野誠一郎

そのほかにもいろいろあるわけですが、例えば稲敷広域についての消防長の供述調書も出たわけです。それから2015年当時の現職の市議が、契約検査課長が課長になる前に社協元副会長と引き合わせた、そういったことについてもどう考えますか。知らないわけではないですね、一応新聞記事は読んでいますでしょうか。お伺いいたします。

中山一生市長

これについても何度も繰り返しになって申し訳ございませんけれども、今後判決を控え、また公判を控えている内容については、この場での発言は控えさせていただきたいと思います。

大野誠一郎

私がお尋ねしていることにつきましては、何ら公判に私は影響ないだろうと思います。それゆえ信頼回復をする、真相を解明すると言いつつも誠意がないと私は思います。

先ほど第三者委員会のお話が出ましたが、第三者委員会の中では官製談合事件の調査が入っております。ということは、昨年の12月の6件に限ってという調査だろうと思います。私がこれまでお話をしていました少なくとも年に10件、10年間にわたる恒常的な官製談合、あるいは人事の介入、市政の影響力については欠けているかと思います。第三者委員会について、その12月の違反事件のみならず、全てを調査するということはいかなるものでしょうか。

菊地紀生総務部長

このたびの事件については先般、市の附属機関といたしました龍ヶ崎市官製談合再発防止検討委員会におきまして、その調査や再発防止対策の検討について着手をしております、先月末に第2回の委員会を開催したところになります。

5月開催の委員会におきましては、これまでに契約制度の概要をお示しし、その運用等を含め不備がなかったか、問題や課題がないかの検証をしていただいているほか、契約事務の手引の編集の着手や、公正取引委員会から講師を招いての職員研修実施について、委員会からご指示をいただいたところでございます。

委員会の取組事項といたしましては、当初から報じられております議員おっしゃるとおり契約6件についての調査、研修、検証を中心にそろえておりますけれども、公判を通じて被告らが陳述しております新たな事項もございますので、こちらについても注視してまいりたいというふうに考えております。

大野誠一郎

菊地部長にお尋ねいたします。第2回目の第三者委員会が行われたということでございますが、その中では契約制度の概要とか契約の手引をつくるとかというような内容でしたが、事件の真相については後回しになっているかと思うんですがいかがでしょうか。

菊地紀生総務部長

官製談合再発防止検討委員会の委員の方からも今回の発生に至る経緯、背景、これについてのご質問をいただいております。これについても市から提供できる情報を最大限提供しておりまして、あと現在進行しております公判の状況であるとか内容であるとかも、当然傍聴に行ったときの内容をお伝えをしておりまして、今後アンケート等も予定しておりますけれども、そういうものなり調査、聞き取りのほうに生かしていく予定になっております。

大野誠一郎

市長の責任についてお伺いいたします。

これまで市長の責任についての答弁はありましたが、一つだけお尋ねいたします。辞職の選択肢はあるのかどうかお尋ねいたします。

中山一生市長

私も大野議員と同様、政治家としての志、思いというものを持っているわけでございますので、政治家の出处進退というものは常に真剣に考えていかなければならないと思っているところでもございますし、現在もそのようにしているところでもございます。ただ今回の件については、今信頼回復そして市政をしっかりと足を固めながら再発防止、そして原因の究明を徹底していかなければならない、加速化をしていかなければならないという強い思いでもあります。今回、先ほど申し上げましたけれども、大変市民の皆様の信頼を著しく裏切った事件については、決してあってはならないことでもあり、市長としての私の責任は非常に重いものであると受け止めていることは、これまでも何度も申し上げさせていただいてきました。改めておわびを申し上げるところでもございます。大変申し訳ございませんでした。

今、先ほども申し上げましたように、とにかく一日でも早く市政の混乱を収束させること、そして失墜させてしまった市民の市政への信頼を回復させることに尽きると考えています。そのためにも、しがらみという言葉もございますが、外部からの市政への働きかけに対しては、それが誰からであっても組織として情報を共有しながら適正に対応できるよう、体制を整え、職員を守っていかなければならないと決意を新たにしているところでもございます。

その上で、先ほど申し上げました不正事件の原因究明、組織及び業務体制の検証、さらには公務員倫理、コンプライアンス意識の強化を図るとともに、職員一人ひとりがそれぞれの取組を認識し、継続して実践していくことにより、市民の皆さんから信頼される市役所、市民が安心して生活できる市政運営を取り戻せる、そのようにしていかなければならないと考えているところです。

一度失った信頼を取り戻すことは決して容易なことではありませんが、二度と不祥事を起こすことのないよう、市政への信頼回復に全身全霊で取り組むことで、市政運営の最高責任者としての管理監督

責任を果たしてまいりたいと考えております。

大野誠一郎

先ほどからも何回もお話ししておりますとおり、中山市政就任以来の積み重ねの一つの弊害、そしてまた3人の職員が亡くなったことに関しまして全く無関係ではない、むしろ原因は積み重ねたものに対しての怒りだろうと私は思います。ましてやこれまで人事や行政に影響力があつたことが、大して大きな影響力があつたとは思えない、そのようにして好き放題やらせていた状況では、監督あるいは管理責任もおぼつかないだろうと思います。

続いて、市長の交際費についてお伺いいたします。

続きにはなりますけれども、一部事務組合の三つ、あるいは県南水道企業団、やはり市長が龍ヶ崎市長として管理者をやり、あるいは副企業長になっているわけですが、この令和元年度の1回限りの稲敷広域の、そしてまた塵芥処理組合の二つの交際費の支出がある中で、これまでのあるいは中山市政就任以来10年ぐらいは支出してきていないわけです。そしてまた領収書もない。しかしながら、案内は管理者として来ている。それが適正な支出なのかを再度問合せしたい。市長からお願いします。

松尾健治市長公室長

私からお答えさせていただければと思います。

この件については、前部長も度々答弁をしていたと思います。同じような内容になるかもしれませんが聞きいただければと思います。

交際費につきましては、市長が外部との交際など市政運営における有益性に鑑み、市政運営上直接かつ密接な関係にある関係機関、関係団体、市政協力者、行政委員会及び附属機関等の委員等を相手として支出されるものと認識しております。

稲敷地方広域市町村圏事務組合や龍ヶ崎地方衛生組合など市長自らが組合の管理者となっている団体であったとしても、本市の代表者として出席する会合等であれば会費は祝い金の名目で交際費を支出しても許容されるものと考えております。

ご質問の令和元年度に関する2件の支出でございますが、平成30年度以前はいずれの一部事務組合が開催する会合においても、交際費からは支出はしておらず各組合から管理者に支払われる報酬から天引きでの支払い、あるいは会費を直接持参するなど自己負担による支出をしていたと伺っております。こうした支払い方法について整理、見直しをする中で一部事務組合議会との会合については市政運営上直接かつ密接な関係にある機関であることから、令和元年度途中に交際費による支出に切り替えたと伺っております。

一方、切替えが年度の中途であったこと、さらには龍ヶ崎地方衛生組合におきましては手続上の不手際等から自己負担により会費相当の額を支出したということでございます。

大野誠一郎

これまでは管理者としての報酬の一部からずっとされてきたとそうありましたけれども、まさにそのとおりです。令和元年までは全て報酬で賄われていた。管理者として案内状が来ています。そんなわけで私は当たり前だろうと思います。市長が代表者、市長が龍ヶ崎市長であるから管理者であっても市長の交際費を

出す。ですから私はそれは間違いだと言っております。

あとはボーイスカウトの件、それから社会福祉協議会の理事会の後の懇談会、それについてもおかしいと併せて言っております。それはいかがでしょうか。

松尾健治市長公室長

先ほどの一部事務組合の会議出席の際の公費負担と同様の趣旨であろうと思われます。

大野誠一郎

同様の趣旨であるということは、市長と呼ばれているんでしたら私も納得いきます。しかしながら、ボーイスカウトの領収書は団長、市長は団長ではないというような話もされましたけれども、そういう領収書は団長として書いてある。社協のものについてはないんですが、当然理事会の後の懇談会ですから市長と呼ばれているわけじゃないです。社協の会長として理事の皆さん方と懇談をしているわけです。それはいかがでしょうか。

松尾健治市長公室長

確かに市長の場合はいろいろな役職に就いておりまして、市長である一方理事長であつたりいろいろな役職に就いているかと思います。いずれにいたしましても、こういった交際費の支出に関しましては市長として出席をして公費から支出したということでございます。

大野誠一郎

松尾部長、ほかの理事長とかいろんな長を、そういった懇親会もあるわけですよ。それはつまり支出したのと支出しないのでは、整合性が取れないでしょうと私は言っているわけです。出していないものについてはどうなるんですか、そういう解釈は。

松尾健治市長公室長

支出したものについてのみ把握しておりまして、支出していないものについて把握しておりませんのでお答えいたしかねます。

大野誠一郎

松尾部長は把握しているかどうか分かんけれども、私は交際費の支出を全て3年分打ち出してもらいました。その中に書いていないんです。しかしながらいろんな形の理事長だ、会長だというものはあるわけですよ。だから確認しないじゃなくて、ないから確認できないんですよ。

そして、これまでいろいろ質問してきたわけですが、それについてどうやら市長交際費とは、交際費支出された件数201件ある中で懇親会等の会費の支出は180件。つまり市長交際費とは血税で飲み食いする公的支出、そんなふうに解釈いたします、私なりに。そういった血税で飲み食いする公的支出は私はやめるべきだと思いますが、市長はいかがでしょうか。

中山一生市長

これについて私も何度か答弁をさせていただいたところでもございますが、会合、意見交換会、懇親会等もございます。飲食を伴う会議などでも当然でございますけれども、皆さんの前で挨拶をさせていただくだけでなく、意見交換の機会などに市の最新の情報や市の課題、そしてまた政策的なことや市民の皆さんの意見を聞くことができることで市政の理解を深めていただく、私にとっても絶好の機会であるというふうに考えております。そしてまた先ほども申し上げましたけれども、それ以外の様々な市民の皆さん、関係者の皆さんの声を聞くことができる、やはり貴重な場でもあると思います。

交際費については私も前回の質問のときにも答えさせていただきましたけれども、やはり直すべきところは直していくべきであろうと思います。しかし、これについては私の考え方からすると、前の串田市長さん時代からの流れを踏襲してきたかなというふうに思いますし、交際費の支出等の金額等も大きく変わっていないというふうに認識をしているところでもございます。

ただ、やはり広域一部事務組合の会合等の会費などの問題もございます。構成する各自治体間においても対応が分かれていることもあります。私自身、次の市長さんになる方にご迷惑をかけてはいけないという思いもございますし、今後このような点も精査しながら改めて検討していかなければならないと考えているところです。

----- 以上 -----

【注】予定しておりました「水質浄化」に関する質問は時間の都合で実施できませんでした。